

情報通信審議会 情報通信技術分科会 IPネットワーク設備委員会  
非常時における事業者間ローミング等に関する検討作業班（第3回）

1 日時

令和7年3月27日（木） 15時00分～16時35分

2 場所

Web開催

3 出席者

（1）構成員

相田主任（東京大学）

飯塚構成員（一般財団法人マルチメディア振興センター）

臼田構成員（国立研究開発法人防災科学技術研究所）

加藤構成員（独立行政法人国民生活センター）

金子構成員（一般社団法人電気通信事業者協会）

北構成員（株式会社野村総合研究所）

クロサカ構成員（株式会社企）

関口構成員（神奈川大学）

西村構成員（公益社団法人全国消費生活相談員協会）

長谷川構成員（東北大学）

藤井構成員（電気通信大学）

堀越構成員（株式会社日経BP）

矢守構成員（朝日大学）

（2）総務省

大塚安全・信頼性対策課長

安西消費者契約適正化推進室長

中川重要無線室長

松宮認証推進室専門官

**【事務局】**

五十嵐電気通信技術システム課長  
柴田電気通信技術システム課企画官  
吉田電気通信技術システム課課長補佐

(3) オブザーバ

株式会社NTTドコモ  
KDDI株式会社  
ソフトバンク株式会社  
楽天モバイル株式会社  
株式会社インターネットイニシアティブ  
日本通信株式会社  
一般社団法人電波産業会  
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会  
一般財団法人電気通信端末機器審査協会  
内閣官房国家安全保障局  
内閣官房副長官補（事態対処・危機管理担当）付  
警察庁  
総務省消防庁  
海上保安庁

4 議事

(1) 事業者間検討ワーキンググループ検討状況報告

金子構成員及びKDDI（渡邊氏）より、資料作3-1に基づいて説明が行われた。  
主な質疑応答は以下のとおり。

**【矢守構成員】**

料金精算について従量課金となるとの説明であったが、災害または障害が発生した際に、影響を受ける人数や継続時間によって、災害・障害の規模が決まってくると思う。従量課金

では、長引いた場合などは負担が大きくなってしまいます。コストがかかりすぎると、ローミングのサービスを使うことに躊躇してしまうような状況が発生することが想定される。一定料金を上限とするような対応は検討されているか。

**【金子構成員】**

今回、ご説明したローミング発動時の費用負担については、事業者間の精算の話であり、ユーザーの利用料に関するものではない。ユーザーの皆さまに対する非常時ローミングのご利用料金については、まだ事業者側で協議中だが、ユーザーの皆さまに対して大きなご負担にならないように検討している。

**【矢守構成員】**

ユーザーに対しては非精算という方針は理解した。事業者間の通信で、長引いてしまうと従量課金の場合にはかなりの金額になることが想定される。そのあたりの対処方法を検討されていたら教えていただきたい。

**【金子構成員】**

繰り返しになるが、ユーザーの皆さまに対する非常時ローミングのご利用料金については、まだ明確になっていない。なお、緊急通報の部分についてはゼロにしようとしている。

**【KDDI（渡邊）】**

事業者間の料金の精算について、緊急通報は非精算であるが、通常のトラヒックの課金については救済された側のお客様から料金をいただくという性質のものになる。かかったコストについては適切なコストを負担いただくことが大原則。コスト割れをして提供するのは健全な事業者間の関係性を崩してしまうことになる。一方で、被災事業者の経済的な影響がどの程度出るかは想定しえないので、引き続き柔軟に事業者間で協議していくことになると考える。

**【矢守構成員】**

災害時というのはどこまで続くか不明であるから、従量課金が適切であり、難しいところであると理解した。

**【北構成員】**

登録商標について、「JAPANローミング」の登録が拒絶ということであったが、是非、TCAに再申請いただきたい。また、本件はオールジャパンでの検討であり、我が国の電気通信事業者の業界団体であるTCAが申請者として適切であるということを総務省からも特許庁に対して申し入れいただければと思う。

**【柴田電気通信技術システム課企画官】**

ご指摘いただいた点については、省庁間の関係で解決すべきものであるかどうかという検討が必要。一方で、TCAの説明にあったとおり、過去の申請時において、TCAは当時のローミング検討会の構成員ではなくオブザーバであったが、今回は総務省の当作業班の構成員であるということで、特許庁との関係で当作業班の位置づけや、当作業班においてTCAがどのような位置づけなのか、何らかの確認が求められるのであれば、総務省からも説明が出来るのではないかと。

**【北構成員】**

承知した。

**【相田主任】**

検討作業班においてTCAから商標登録してほしい旨を決定し、それが議事録に残っていれば、その議事録を添えて特許庁に再申請することで、かなりのエビデンスになるという認識。総務省から必要に応じて説明することは直接ではないものの、助力にはなると感じた。また、北構成員よりオールジャパンについて述べられたが、「JAPANローミング」がダメな場合、「オールJAPANローミング」にしたらいメージするところが分かりやすいかもしれないと思うが、やはり、あまり長くなるのも考え物なので、オールジャパンの心で「JAPANローミング」としたということで、検討作業班の総意として議事録に残すことでサポートになると考える。

**【金子構成員】**

相田主任をはじめ、皆様からのご賛同ありがとうございます。災害時用Wifiである00000-JAPANとの類似性や、端末上での「JPN-ROAM」という表示名との親和性からも、音との繋がりと判りやすさもあり、何より一般の方が聞いたときに、わかりやすいことが大事であ

り、「JAPANローミング」とするのが、オールジャパンの施策として一番通りがよいと思う。本検討作業班にご参加の各位からの総意として、TCAから「JAPANローミング」の商標取得を行うことを改めてご要請頂いたので、これで再申請をしてみたい。

**【五十嵐電気通信技術システム課長】**

利用者の料金の追加負担が必ずしもゼロではないというニュアンスの発言があったかと思う。今までの議論からすると、原則としてゼロと考えているが、それでよいか。

**【金子構成員】**

過去の議論においても、利用者の負担が大きくならないように対応するという形の説明を継続させていただいた。

**【五十嵐電気通信技術システム課長】**

場合によっては費用が発生するという事か。

**【金子構成員】**

詳細の議論は継続中であり、利用者の負担が無くて済むのか、多少なりとも発生してしまうのか、議論中。

**【五十嵐電気通信技術システム課長】**

承知した。

**【相田主任】**

ローミング中は全くゼロで使えるというのも考え物である。被災事業者と利用者が結んでいる料金プランの中ではそのまま使えるが、それ以上は、事業者間で精算いただくことが素直な解釈と思うが如何か。

**【金子構成員】**

早急に事業者間で議論し報告する。

(2) 非常時事業者間ローミング発動時の品質について

金子構成員より、資料作3-2に基づいて説明が行われた。

主な質疑応答は以下のとおり。

**【藤井構成員】**

300kbpsであれば、二段階認証を含めたテキストのやりとりができるとのことだが、決済機能をネットワークを使って行うことが一般的になってきているところ、示された速度で決済機能を使うことが可能か教えていただきたい。また、災害の規模によって速度も決まってくると思うが、今回の試算はどれくらいの規模で行ったのか。

**【金子構成員】**

決済サービスについては、300kbpsで大丈夫ではないかと考えるが、通信環境にもよるので、完全に保証することは難しい。今回の試算の数値について、各社様のリソースの部分に影響するところもあるので、回答を控えたい。

**【藤井構成員】**

承知した。是非、しっかり使えるレベルに調整いただきたい。

**【相田主任】**

現在の想定として、速度制限を行うがプロトコルによる制限は行わない、例えば、動画ストリーミングは通さないというような、流れるトラフィックの内容による制限はしない理解で正しいか。

**【金子構成員】**

然り。トラフィックの内容に応じて規制をかけるものではない。

**【相田主任】**

承知した。

(3) 非常時事業者間ローミングの周知・広報活動について

金子構成員より、資料作3-3に基づいて説明が行われた。

主な質疑応答は以下のとおり。

**【藤井構成員】**

利用方法について、特に、緊急通報のみ方式のときは、ネットに繋がらない状態で、手動で繋ぐのをユーザーにやってもらうことになる。できれば、ネットに繋がらないが、スマホを持っていれば繋ぎ方がわかるという仕組みがあると良いと思う。接続の方法を防災アプリに入れてもらうのもあるかと思うが、ネットワークが切断されている状態でも、それが検索できる方法を考えていただけると良いと思う。

**【金子構成員】**

電波が止まっている状態で、いかに情報を届けるのかは苦勞するところ。先ほど、PDFで印刷したものを避難所等に配るという方法を御紹介したが、ほかに例えば、市町村の市報などで平時より周知するなど、いろいろな方法をとるのはひとつの手。また0000JAPAN等の施策もあるので、活用していただき情報を確認するなど、うまく併用していくのも手になる。近くに使えているユーザーもいると思うので情報共有してもらうなど、何かしらの情報が届くよう考えていく。

**【藤井構成員】**

承知した。できればアプリなどに事前にその情報をいれておいて、必要なタイミングで引き出せればよいと思うが、そのような協力が得られるかどうか次第でもある。引き続きご検討いただきたい。

**【相田主任】**

事前にダウンロードするという観点では、アプリが一番良いと考えたが、アプリがダメな場合はPDFや動画コンテンツなども良いと思う。あらかじめスマホにダウンロードしておいて、オフラインでも確認できるコンテンツを検討いただきたい。

**【北構成員】**

資料9頁において、手動によるネットワーク選択時に、2025年度以降に販売の端末では、JPN-ROAM Xと表示されるとのことだが、既存端末もファームウェアアップデートにより表示ができるようになる機種もあるのか。

**【金子構成員】**

遠隔でファームウェアの改修ができるものについては、改善が見込める対象機器もあるかと思うが、全機種ではない。しかし、新しい端末に徐々に切り替わっていくにつれて、確実に増えていく。

**【北構成員】**

承知した。最近中古端末やSIMフリー端末の利用者も増えている。端末ベンダーのHPにおいても、利用可否が確認できるようになることを期待する。

**【金子構成員】**

是非、端末ベンダーの皆さまにもご協力が得られたら非常にありがたい。

**【矢守構成員】**

藤井構成員の話にあったが、ネットに繋がらない際、ユーザーが慌ててしまうことが懸念される。繋がらないときのユーザーの行動を考えると、携帯電話を扱っているショップに行くことが想定される。ショップにもこのような情報が行き渡るよう検討いただきたい。

**【金子構成員】**

ショップについては、非常に活用できる接点であると思う。2頁にも記載されている通り、ショップの活用については議論継続中であり、固まってきた段階でまた改めて説明させていただきたい。

**【矢守構成員】**

承知した。是非お願いしたい。

**【飯塚構成員】**

9頁について、災害が起きたときは繋がらないということがユーザーは想像できると思うが、通信障害のときは、自分はその通信障害が原因で繋がらないのかどうか、判断がしにくいのではないかと思う。その際に、ネットワーク選択画面を見ることでローミング先が表示されているのであれば、通信障害が起きているということを手元で確認できるようになるという理解で良いか。

**【金子構成員】**

普段からネットワーク選択画面にて、ローミング用のネットワークが選択できるわけではない。通常、発動して初めて、救済用のネットワークが選択できるようになるため、発動しているかどうか判断できる。

**【飯塚構成員】**

繋がらないと思っても、ネットワーク選択画面にローミングの接続先がなければ、通信障害ではないとユーザーが確認できる、と理解した。

**【金子構成員】**

非常時ローミングが発動した段階で、発動したかどうかわかる、というものとなる。障害によっては、長時間化せず復旧する場合等もあるので、この場合、非常時ローミングが発動しないこともある。

**【飯塚構成員】**

承知した。もう一点、周知する対象先として、災害時の場合、災害拠点となる商業施設もそれぞれ対応されていると思ったので、そのような災害拠点も、候補としてあると思った。使い方については、パンフレットなどを配るとあったが、QRコードを載せるという理解で良いか。QRコードを読み取ることによって、資料10頁のような対象端末の検索画面に飛ぶといった使い方ができると良いと思う。

**【金子構成員】**

配布するPDFに掲載する情報はこれから検討。おっしゃる通り、WiFiがつながる環境であ

れば、QRコードを読み取り、そういったページも見ることが出来るといった案も検討させていただく。

#### 【相田主任】

9頁について、救済用のPLMN番号は、ローミングが発動しないと表示されないということだが、平時でも手動選択の画面には様々な選択肢が出てくるため、この中にそういうものが現れると想像はつくと思う。しかし、実際の場面を見たことがあるかどうかというのは、いざというときの対応に結構効いてくる。そのため、災害用伝言ダイヤル171は月に一回試すことが出来、緊急警報放送だと何か月に1回、試験の電波が発射されるといったものと同様に、実際の手動切り替えをユーザーが試せる環境というのを、適宜ご用意いただけたらいいと思った。資料の中の「平時」と「非常時」は、情報を伝えるタイミングの平時・非常時ということかと思うが、それに加えて、訓練というような機会をどれくらい利用者に提供するのかといったところも是非検討いただきたい。

#### 【金子構成員】

ローミングは訓練のための環境を用意しようとする、実際に発動したときと同じように使えてしまうので、訓練環境の提供は難しいと考えている。少しでもわかりやすくする方向で検討を進めていく。ご理解いただきたい。

#### (4) 令和6年度技術試験事務実施状況報告

KDDI（前野氏）より、資料作3-4に基づいて説明が行われた。

主な質疑応答は以下のとおり。

#### 【堀越構成員】

14頁の運用方法、発動時のフローについて、地震について、震度7発生時は速やかに協議を実施するという具体的な条件が見えてきたと理解。一方、台風や豪雨災害などでも自動的に発動できるように、発動条件の更なる詳細化や、場合によっては外部トリガーによる強制発動フローがあっても良いと思う。何か起きた際に、これは発動するかしらないか、MNO間でお見合い状態になり、せっかくの非常時ローミングによって救える命を救う機会を失ってしまうおそれがあることを懸念している。

**【KDDI（毛利）】**

今回地震が分かりやすいというところで、表現している。その他の災害には、台風、豪雨、最近だと山火事など様々なケースがある。安全・信頼性に関する内容は、総務省の安全・信頼性対策課とも連携し検討しており、その中で、今回アイテムとしての非常時ローミングが追加されるということになるので、どういったトリガーで発動するのかは、継続して協議していきたい。いろいろなケースがあり、非常時ローミングに限らず、情報共有を事業者間で実施しながらどうしていくか、継続検討していく。

**【堀越構成員】**

承知した。もう一点、非常時ローミングが発動されると、MNO4社でネットワークを最大限支えあうといった、全体最適的な運用になるかと思う。これまで、各社災害が起きたときに迅速な対応をされてきたが、個別に最適と考えられる復旧をされたことと思う。非常時ローミング実現後は、少し発想を変えることが必要かもしれない。

**【KDDI（毛利）】**

これまでは各社対応がメインであったが、全体的にどう支えるかというのが非常時ローミングの良いところと思うので、さらに連携し、国民の生活を守っていくべきか、非常に重要なテーマと思う。引き続き検討を進めていく。

**【相田主任】**

15頁のフローについて、ローミング開始確認を被災事業者が行うことになっている。これが救済事業者各社からの電話等の連絡を受け取るだけであれば、問題ないと思うが、本来であれば、事故発生地区で、ローミングが出来るかどうかを確認する必要がある。これを被災事業者にやってもらうのは、復旧に人手を取られている中で大変だと思うが、ローミング開始確認についてどこまで検討されているか。

**【KDDI（毛利）】**

詳細は今後詰めていくが、例えば、他のネットワークからトラフィックが上がってくるようになるので、ローミング開始したときは、いわゆる中継事業者からのトラフィックの増加で確認はできると思っている。他の事業者のほうに位置登録も増えてくるので、そのあたりのネ

ネットワーク的な観点で確認できると思う。

【相田主任】

承知した。

(5) 今後の検討スケジュール

事務局より、資料作3-5に基づいて説明が行われた。

(6) その他

【相田主任】

議事(1)で提案のあった、サービス名の商標登録については、ご提案のとおりTCAから「JAPANローミング」を申請いただくようにお願いします。

以上